

稲の収穫後は、減耗した地力の回復に向け、堆肥や土壌改良資材を施用して、ほ場に応じた適切な土づくりを行いましょう。

1 秋起し

- ・地温の高い10月中旬までに行い、鍬込んだ稲わらの腐熟を促進する。  
(2 番穂 (ひこばえ) はイノシシを誘引することから結実前に秋起しを済ませる。)
- ・秋起し後には基幹排水溝を設置し、排水口に連結してほ場の排水を促す。

2 土壌改良資材の施用

- ・水田土壌中の加里、珪酸が減少し、目標値を下回っているほ場が多い。
- ・土壌調査の結果等も参考にして、不足している成分を補う資材を施用する。

けい酸資材や緑肥には市とJAの助成があります！

◎ 主な土壌改良資材の成分と標準施用量

資材名	標準施用量 (kg/10a)	標準施用時の主要な成分内容 (kg/10a)					
		ケイ酸	カリ	リン酸	苦土	アルカリ	鉄
新灰入りスーパーエスアイ加里	100	24	7	3	3	30	—
有機加里入りシリカロマン2号	100	20	4	3	4	34	—
いなほシリカロマン	100	25	—	5	7	45	5
大地のきらめき	75	46	1.5	0.15	0.3	—	0.7

※いなほシリカロマンを施用する場合は、加里を補うため、翌年の6月中下旬にエスアイ加里特号を散布する。

3 堆肥の施用と緑肥(ヘアリーベッチ)の栽培(播種)

- ・有機物の施用により土壌の物理性、化学性、生物性が改善します。
- ① 堆肥の施用 (腐食含量が低く地力の低いほ場では堆肥を施用する)

◎堆肥施用の目安 (10a当り)

	乾田	半湿田
籾殻堆肥	150kg	100kg
発酵ケイフン	2t	1～2 t



- ② 緑肥「ヘアリーベッチ」の栽培 (翌年の大豆作付け予定地に播種)

稲収穫後～10月上旬		翌年5月20日頃		5/25～6/10	
額縁排水溝 の設置	⇒ 播種 (3～4kg/10a)	⇒ フレールモア で破碎	⇒ ロータリー で鋤込み	⇒ 大豆播種	

4 額縁排水溝の設置と心土破碎の実施

- ・水田の透水性が悪いと根腐れや根の伸長が妨げられ、堆肥や土壌改良資材の施用効果が十分に発揮されません。
- ・排水不良田では額縁排水溝や排水溝の設置だけでなく、サブソイラーによる心土破碎を行うことで、ほ場の透水性を改善する。

8／20～10／20は「秋の農作業安全運動」実施中！！  
9／15～11／15は「秋の土づくり運動期間」、10／1は「土の日」です。